

③同和問題について

ここ5年間で同和地区の人々に対する差別的な発言や行動を見聞きしたことがあると回答した人は、10.5%でした。（前回の調査と比較して2.5ポイント減少）この結果からわかるように、一定の理解は進んでいますが、部落差別は存在しています。

- 「もし、あなたや家族、親戚が結婚するとき、相手が同和地区の出身だとわかったら、あなたはどうかされますか。」という問いへの回答

結婚を許す	75.2%
結婚を反対する	1.0%
その時にしないと何ともいえない	20.6%
無回答	3.2%

- 「同和問題解決のために、あなた自身はどうしたらよいと思われますか。」という問いへの回答

差別をなくすために真剣に取り組む	29.5%
部落差別はないので、何もしない	22.6%
何をしても部落差別はなくなる	7.6%
同和問題とは関わりたくない	3.4%
わからない	34.6%
無回答	2.3%

「部落差別を見聞きしたことがない」と回答した人が一番多い結果でした。しかし、「見聞きしたことがない」ので「部落差別はない」のではなく、「気が付いていない」「部落差別を見抜けない」ということも考えられます。

人権・同和教育が目指すところは、差別を見抜き、差別に負けない力を身につけるとともに一人ひとりが差別的な状況を変えていく力を養うことにあります。



ポイント

- ★「その時にしないと何ともいえない」という回答は、差別を容認（「消極的に結婚に反対」）することにつながりかねない。
- ★部落差別が残っているからこそ、同和問題に対して繰り返し学習をしていく必要がある。
- ★同和問題を解決するためには、一人ひとりが行動を起こす必要がある。行動を起こす際、「わからない」ということを少しでも減らしていくよう、啓発を引き続き行っていく。

④身元調査を行うことについて

身元調査に否定的な意見が一番多い結果となりました（63.5%）

- 「就職や結婚のとき、本人の人柄や実力とは関係ないことがらを調査することについて、あなたはどのように思われますか。」という問いへの回答

昔から誰もがやっていることなので、当然	5.6%
おかしいと思うが、反対してもしかたがない	13.5%
間違っているのだから、なくすように努力する	21.8%
そのような調査は、全く必要ない	41.7%
その他・無回答	17.4%

身元調査は、結婚差別や就職差別につながるほか、プライバシーの侵害にも関わります。そのため、身元調査を行うことは誤りです。



ポイント

- ★身元調査を行うことの誤りについて、理解を求めていく。

